

* 労働市場速報（平成28年2月分）について（解説メモ）

1. 有効求人倍率の動向等 【表2a】

- 有効求人数（季調値）は、103,613人で、前月比0.6%増となった。
- 有効求職者数（季調値）は、103,130人で、前月比1.7%増となった。
- この結果、有効求人倍率（季調値）は1.00倍となり、前月から0.02ポイントの低下となった。

2. 新規求人倍率の動向等 【表2b】

- 新規求人数（季調値）は、36,064人で、前月比4.8%減となった。
- 新規求職者数（季調値）は、23,845人で、前月比6.6%増となった。
- この結果、新規求人倍率（季調値）は1.51倍となり、前月から0.18ポイントの低下となった。

- 主要産業別新規求人数（原数値～前年同月比）は、運輸業、郵便業（21.4%増）建設業（20.8%増）、情報通信業（10.5%増）、卸売業、小売業（9.0%増）、医療、福祉（8.8%増）、専門・技術サービス業（7.7%増）、サービス業（6.2%増）で増加した。他の産業は減少した。
全産業では前年同月比8.0%の増加であった。【表4】。

3. 常用新規求職者の態様別動向等 【表5】

- パートタイムを除く常用新規求職者（原数値）を態様別に見ると、離職者（前年同月比3.5%減）、無業者（同14.4%減）で減少した。在職者（同4.0%増）は増加した。

4. 雇用保険受給者の動向 【表6】

- 雇用保険受給者の動向については、2月の受給者実人員は24,846人で、前年同月比2.4%減少した。

（雇用情勢の概況）

2月の有効求人倍率（季調値）は1.00倍で前月から0.02ポイント低下。
求人・求職の動きは、新規求人数（原数値）は、前年同月比8.0%増加、新規求職者（原数値）については、2.2%減少した。

県内の景気は、緩やかに回復している。雇用情勢については、持ち直している。

■景気判断は日銀横浜支店（3月） ■雇用情勢判断は前月と同じ

今後も、雇用情勢について引き続き注視してまいりたい。